

平成 28 年度 第 4 回南区区民会議

日 時 平成 28 年 11 月 30 日(水) 17:00～
会 場 南区役所 多目的室 (サウスピア 1 F)

次 第

1 開 会

2 議 事

- (1) アンケート結果の概要について【資料 1～資料 3】
- (2) アンケートを踏まえた施策案のブラッシュアップの方向について【資料 1、資料 4】

3 その他

4 閉 会

次回会議:平成 29 年 1 月旬予定

資料-1 南区アンケート結果と施策案ブラッシュアップの方向について

1) アンケート結果の概要

資料-2. アンケート集計結果、資料-3. アンケート自由意見の整理 参照

(回答者の属性)

- ・女性、高齢者が多い。
- ・既婚・子供ありの回答者がほとんどを占める。これは、年齢層から見て当然と考えられる。
- ・地域的には、おおむね南区全体から万遍なく回答が得られたと考えてよい。
- ・南区以外からの回答者が結構あったが（8.4%）、南区内での活動に携わっているとすれば、南区民に準ずるとみて、分析に含めてよいと考えられる。

(施策案への総合的な評価)

- ・A 評価が高かったのは、＜7＞58.5%と、＜6＞51.0%。
逆に少なかったのは、＜2＞36.0%、＜4＞37.2%、＜3＞37.9%。
- ・A+B では、＜7＞92.5%→＜1＞89.8%→＜6＞88.9%→＜5＞84.6%→＜3＞83.7%→＜2＞80.7%
→＜4＞78.8%、の順番。
- ・比較的独自で具体的な案の方に支持が少なかったのではないか。
- ・いずれにしても、すべての施策が80%程度以上の比率で評価されている。

(有効とされた個別の施策)

- ・それぞれの施策の中で、有効と評価された個別の施策（事業）は、支持率の多い順に、
 - ①公的空地・空施設等を日常的に利用＜2＞：70.4%
 - ①子育てサークル等の集まる場所をつくる＜6＞：70.4%
 - ③コミセン等にいつでも自由に使える場を整備＜7＞：66.8%
 - ④まちのクリニック等にポスターを貼る＜5＞：56.9%
 - ⑤人材バンク「南区知恵袋」を設置＜3＞：55.3%
 - ⑥集合住宅住民の建物単位での加入促進＜1＞：54.9%
 - ⑦カレンダーを駅、大型店、コンビニ等に掲示＜4＞：49.0%
- ・場の整備に関するものが上位に来ている。

(意見、提案等)

- ・全部で194項目の意見が寄せられた。253人にそれぞれ7欄、1771欄に対する記入の率はおおむね11%である。
- ・意見は、以下の4種類に大別できる。
 - ①施策案に対する賛同・補足（98）
 - ②施策案に対する批判的な意見（25）
 - ③施策案への新たな提案・意見（38）
 - ④その他、疑問・質問等（33）
- ・上記分類については、どちらか決めにくい項目もあるが、＜①施策案に対する賛同・補足＞が半分程度を占めている。

2) アンケートを踏まえた、施策案ブラッシュアップの方向

資料-4. 施策検討シート（アンケートを踏まえた改訂案） 参照

（アンケートに基づく施策案の取捨選択等）

- ・アンケート結果により、施策案のいくつかを取り下げる必要はないと考え、1～7の施策を提案することとする。
 - A（有効でありぜひ進めるべき）+B（必要なので検討していくべき）を合わせると、いずれも80%程度以上となっている。
- ・報告書での7施策提案の順番をどうするか。支持率の順にすることが考えられるが、内容によるべきか。
 - ＜第1案＞自治会→ 多世代交流、情報発信→ 高齢者福祉→ 子育て→ 公共施設環境
 - ＜第2案＞自治会→ 高齢者福祉→ 子育て→ 多世代交流、情報発信→ 公共施設環境
- ・当面は今のままで作業

（施策検討シートの改訂方向）

- ・施策検討シートの枠組みは、これまで検討してきたものをあまり変えるべきではないが、若干分かりやすく改善する。
 - ①担い手、②対象は簡潔に
 - ③具体的な事業提案と、④優先取組み方針は、場合により再編。
 - ③具体的な事業の前に、施策の課題と目的を述べる。③④の中に書いてあるものを抜き出す。
- ・具体的な事業提案については、アンケートで支持が多かったものを軸にして再編する。
 - 一定の支持を得たもの（おおむね30%以上）を「実現のために推進していくべき事業」とし、その内容を可能な限り具体的に説明
 - 支持の少なかったものとアンケートからの取入れたものを、「その他、検討していくべき事業」として、下段に記述する
- ・アンケートの提案を取り込んで記述する。その選択は、区民会議で協議して決定。
- ・「施策の評価」については、アンケート結果も踏まえて書きかえる。
- ・施策案-7については、アンケート作成時にタイトルそのものを変更したので、昨年度までの検討内容も含めて書きかえる必要がある。

*** 第3回区民会議時点の施策検討シートを書き変えた部分は、アンダーラインで明示している。**

（アンケート結果の添付）

- ・施策案ごとに、アンケートによる＜総合評価＞、＜主な意見・提案＞を添付し、対照して見られるようにする。

資料-2 アンケート集計結果

＜施策案-1＞ 自治会活動への参加促進キャンペーン									
総合評価	A	(比率)	B	(比率)	C	(比率)	無回答	(比率)	(A+B)
	115	45.5%	112	44.3%	15	5.9%	11	4.3%	89.8%
有効施策	1-1	マンガ版『もしも自治会がなかったら』を作成			108	42.7%			
	1-2	Webサイトの普及拡大			81	32.0%			
	1-3	集合住宅住民の建物単位での加入促進			139	54.9%	⑥		
	1-4	自治会同士の交流会			93	36.8%			
＜施策案-2＞多世代交流の場『(仮称)みなみフレンドパーク』の創設									
総合評価	A	(比率)	B	(比率)	C	(比率)	無回答	(比率)	(A+B)
	91	36.0%	113	44.7%	34	13.4%	15	5.9%	80.7%
有効施策	2-1	「地上絵コンクール」を学校対抗等で開催			27	10.7%			
	2-2	耕作放棄地等での米づくりなど			69	27.3%			
	2-3	公的空地・空施設等を日常的に活用			178	70.4%	①		
	2-4	遊休地などで東西間交流イベント			99	39.1%			
＜施策案-3＞ 高齢者の知識・経験を活かした区民セミナーの開催									
総合評価	A	(比率)	B	(比率)	C	(比率)	無回答	(比率)	(A+B)
	96	37.9%	116	45.8%	28	11.1%	13	5.1%	83.7%
有効施策	3-1	人材バンク「南区知恵袋」を設置			140	55.3%	⑤		
	3-2	コミセン等でセミナーを開催			117	46.2%			
	3-3	地域の団体への出前講座			98	38.7%			
	3-4	コーディネート組織の立上げ			57	22.5%			
＜施策案-4＞イベントカレンダー『(仮称)コミコミみなみ』をつくる									
総合評価	A	(比率)	B	(比率)	C	(比率)	無回答	(比率)	(A+B)
	94	37.2%	105	41.5%	41	16.2%	13	5.1%	78.7%
有効施策	4-1	オープンイベントを地図上に表示			91	36.0%			
	4-2	カレンダーを駅、大型店、コンビニ等に掲示			124	49.0%	⑦		
	4-3	市報への折り込み、区Webサイトに掲載			116	45.8%			
	4-4	情報を収集・整理する組織の立上げ			35	13.8%			
＜施策案-5＞シニアサポートセンター(地域包括支援センター)の周知・活用の推									
総合評価	A	(比率)	B	(比率)	C	(比率)	無回答	(比率)	(A+B)
	110	43.5%	104	41.1%	23	9.1%	16	6.3%	84.60%
有効施策	5-1	まちのクリニック等にポスターを貼る			144	56.9%	④		
	5-2	子ども向けイベントの開催			82	32.4%			
	5-3	高齢者見守りキーホルダーの普及			97	38.3%			
＜施策案-6＞地域・世代間交流を通じた、子育て支援策の充実									
総合評価	A	(比率)	B	(比率)	C	(比率)	無回答	(比率)	(A+B)
	129	51.0%	96	37.9%	16	6.3%	12	4.7%	88.9%
有効施策	6-1	子育てサークル等の集まる場をつくる			178	70.4%	①		
	6-2	行政主導での世代別、テーマ別の公開講座			75	29.6%			
	6-3	学校にいるカウンセラーとの連携			74	29.2%			
	6-4	SNSを活用したセミナー等の広報			76	30.0%			
＜施策案-7＞使いやすく、居心地のよい公共施設への整備									
総合評価	A	(比率)	B	(比率)	C	(比率)	無回答	(比率)	(A+B)
	148	58.5%	86	34.0%	4	1.6%	15	5.9%	92.5%
有効施策	7-1	既存公共施設のバリアフリー化			106	41.9%			
	7-2	自治会が交流・居場所づくりに取り組む			105	41.5%			
	7-3	コミセン等にいつでも自由に使える場を整備			169	66.8%	③		
	7-4	空き家をリフォームして地域住民が活用			99	39.1%			

■ アンケート回答者の属性

(* 無回答を除いた比率)

		回答者数	比率-1	* 比率-2	
性別	女性	84	33.2%	65.1%	・女性が多い
	男性	45	17.8%	34.9%	
	無回答	124	49.0%	—	
年齢階層	20歳未満	0	0.0%	0.0%	・60歳以上の高齢者が59.5%
	20-30歳未満	8	3.2%	3.3%	
	30-40歳未満	13	5.1%	5.3%	
	40-50歳未満	26	10.3%	10.7%	
	50-60歳未満	52	20.6%	21.3%	
	60-70歳未満	60	23.7%	24.6%	
	70-80歳未満	69	27.3%	28.3%	
	80歳以上	16	6.3%	6.6%	
家族	既婚	216	85.4%	93.1%	・既婚・子供ありが76.3%、無回答の一部を含めるともつと多いか
	未婚	16	6.3%	6.9%	
	無回答	21	8.3%	—	
	子供あり	198	78.3%	88.8%	
	子供なし	25	9.9%	11.2%	
	無回答	30	11.9%	—	
居住地区	内谷	17	6.7%	7.2%	・おおむね南区全体から万遍なく回答 (5%以上を太字)
	円正寺	0	0.0%	0.0%	
	大谷口	28	11.1%	11.8%	
	大谷場	9	3.6%	3.8%	
	鹿手袋	15	5.9%	6.3%	
	白幡	17	6.7%	7.2%	
	神明	3	1.2%	1.3%	
	関	1	0.4%	0.4%	
	太田窪	12	4.7%	5.1%	
	辻	14	5.5%	5.9%	
	沼影	11	4.3%	4.6%	
	根岸	2	0.8%	0.8%	
	広ヶ谷戸	13	5.1%	5.5%	
	文蔵	19	7.5%	8.0%	
	別所	12	4.7%	5.1%	
	曲本	11	4.3%	4.6%	
	松本	1	0.4%	0.4%	
	南浦和	28	11.1%	11.8%	
	南本町	3	1.2%	1.3%	
	四谷	1	0.4%	0.4%	
南区外	20	7.9%	8.4%		
無回答	16	6.3%	—		

資料-3 アンケート自由意見の整理

施策1 自治会活動への参加促進キャンペーン

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
夫が長年、自治会の役員をやっている。役員の高齢化、若い人たちが参加できない状態は改善が必要。	A
戸建て(新築)も同様に条件に盛り込む。	A
未加入者に対し勧誘にまわって、自治会があるメリットを話す(災害時や防犯上の必要性など)	A
アパートに入居する前に自治会加入が必須だと説明する。	A
単身世帯へのメリットが見えにくいので、研究が必要。	A
自治会は行政の下請けではなく自発的な必要不可欠な組織であることを強調する。	A
集合住宅の住民もさることながら、オーナーからの一括払いと促進、併せて管理会社へも協力を呼び掛け加入や回覧の方法等について協力要請を図る。	A
管理会社やオーナーの支援をいただき加入促進を図る。	B
若年層へ自治会の必要性を説明する機会が少ないので、マンガ、Web等は必要。	B
漫画版の他、しっかりした広報資料も作って配布すること。	B
より具体的に検討する必要があるため、関係者の意見聴取や内容に関する検討会が望まれる。	A
自治会交流会が有意義です。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
マンガなんて読まなきゃお終い。	B
自治会活動への参加ではなくて、まずは加入していただくことから始まるのでは？	A
自治会の参加の強制はすべきか？必要と考える住民が参加するような制度を創出したらどうか。	C
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
自治会費の有効利用を、単身世帯や若い世帯の意見を聞いて検討する。	A
自治会費の使われ方など、見えるものがあると近く感じる。	A
体育やお祭りなど、イベントを通して自治会加入を働きかける。	A
ミニ運動会、子ども対象のイベント、芸能大会なども検討。イベントを多くしても自治会の運営が難しくなるか？	B
多くの人を自治会活動に参加してもらうのは永久の課題です。その方法は色々あると思いますが、若い人を取り込むには家族と一緒に参加できる、サッカー野球テニス等の大会を広く行い、既存の自治会が何らかの協力(資金面や施設面)できたら良いと思う。そこからがはじまりです。	A
ひとつひとつの家に参加促進も大事だと思う。さらに南区の商店などが中心になって促進する活動ができるとよい。	A
各自治会の活動や班長の仕事が具体的にわかれば「班長が大変だから入らない」というのは減るのでは？	A
防災情報等を広める(共有・改善・改訂)。Webサイトの利用は良・悪があって、よく考えないと無駄になる。	B
近隣の挨拶運動から話し合いに発展するような運動をすすめたいと思います。	B
複数の自治会で目的を設定し交流会(自治会活動の意義、楽しさなど)をひらき意見交換、交流、研修会等をテーマを決めておこなう。	B
参加の意思はあっても新住民で参加しても良いのか？入っていきやすい雰囲気づくりが必要ではないかと思う。	B

反対はしないが、そのエネルギーがあるなら単位自治会活動を活発化したほうがいい。組織率が低いのは自治会活動が不活発で魅力がないからだと思う。役員が率先して勉強してください	A
4) その他、疑問・質問等	評価
自治会役員の固定化をどう防げるか？選挙の立会人など行政の末端には多少援助金が支払われているのでしょうか？	B
自治とは自分達で自分達を守る運営。治めていくのだから。	A
当自治会は何にもやらない、広報がないし。	B
コミュニティセンターの活用を図る。	B
これらの施策が機能するかどうかはアンケートでは分からない。小規模なトライアルをやって評価することから始めるべき。	C
今の自治会は本当の意味で機能していない、一部の人たちの自治会である。私は自治会を辞めたいと考えている。	—
役員であれば楽しいですが、一般の会員が参加するところが少ない。	—
大きい自治会でなく、小さい自治会がよい。	—

施策2 多世代の交流の場『(仮称)みなみフレンドパーク』の創設

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
子供を交えた交流の催しが、発展性があると思います。継続性が必要要件でしょう。	A
良い企画を考え、実施し、その後結果を検証。	A
住民が自発的に開催へと向かうようなイベントの進め方が大切だろうと考えます。	C
大変有意義だと思いますが、自治会役員の動員はやめてください。単位自治会の活動強化に時間をください。	A
恒常的なものが必要だと思う。ただし、ランニングコストがかかるものは反対。	B
施設の多様な目的使用ができるといい。旧南浦和公民館のあとにできる施設の多目的活用を積極的に認めてほしい。	A
イベント開催はよいこと。その場を常設することについては、効果と維持コストの両面から評価すべき。こちらも小規模なトライアルが必要。	B
南区区内における遊休地については埼京線の東方面にかたより、土地利用の難しさがある。	B
費用予算対効果が問題。	C
フリーマーケットなども桜並木で開催してもよい。	—
季節ごとに(年4回)、小規模でも良いので。	—
世代間交流イベントが少ないので、区の主導で何かやるべき。	A
高齢者の活動(米作りや野菜作りなど)の成果をファミリー層に安価に売り出すとよい。	A
子供たちを含めた行事、食べ物づくりなどの将来につながる体験をしていただく。	B
動植物ふれあいパークや収穫祭(多世代参加・交流)	B
ふれあう機会、ふれあう場所を決めるのも大事。さらに地域のイベントなどがそこを中心に増えれば、自ずと多世代交流の場ができるのではないかな。	B
昔の遊びを教えたり、おもちゃをつくったり、等。	B
あまりお金をかけないで多世代交流ができないかな。	—
どこにどんな空き家や空き施設があるか具体的な情報提供が必要。大学や高校と連携した地域創成活動に成果事例が見受けられる。学生からエネルギーやアイデアをもらって取り組む。	B

2) 施策案に対する批判的意見	評価
地上絵コンクールは学校の負担が大きい。	A
無理じゃないかな。	C
現行の公民館活動の見直し等を図り新たな制度の創設は不要である。	C
手のかかるお子さんがいる家庭では遠くに出かけていくのは無理があると思います。各地域での催しがあるといいと思います。	B
箱物で交流を促すよりも、既存のイベントで東側にも西側にも足を運びやすくするべき。	C
今ある交流の場でよい。	C
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
米づくり、野菜作りの収穫物をふるさとふれあいフェアなどで販売すると地産地消につながる。	B
年に1度のふるさとフェアの半分ほどの規模のイベントをあと3回増やしては。競馬場の場所以外にも設置するなど。	B
区民会議テーマで一番関心の高いのは災害発生時の区民の安全。地域の特性を生かし知恵を出せるよう、多世代交流の場を活用して共通認識を高める。	A
複数の自治会協同で目的を持った世代間交流を開催する。案:まず少数自治会でやってみてそれを区ベースに発展	C
みんなで区内美化のため、ゴミ拾いでもしたらどうか。	—
4) その他、疑問・質問等	評価
南区フェア等を見直しできれば良い。	B
別所沼を活用したイベント計画してほしい。	B
朝、空地等でラジオ体操をするなど。	B

施策3 高齢者の知識・経験を生かした区民セミナーの開催

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
小中学生に是非伝えてほしい。	A
知識や経験は地域の宝なので、ボランティアで指導をお願いします。	A
高齢者を活かすには現役時代の知識、技術を発揮する場所をつくり、登場させることではないかと思う。	A
コミュニティセンターや公民館と協働して区民セミナーを頻繁に開催すること。	B
高齢者の昔話や昔の遊びを他の世代や子供たちに伝えて交流する。	—
区地域の歴史、文化などの知識や経験談等のセミナー、現地見学などを開催する。	B
昔の経験を大切に發揮していただく。	—
回数、内容、参加者が限定されてしまう。	C
東西に広く宮内に有能な方がいますので、人材センターの方に教えを願うのはありがたいことです。	A
元大学教授や専門の方々のお話を聞けるとよい。IT、パソコンの楽しい使い方なども教えてほしい。	A
学校にお呼びして話を聞いたり、実際に体験できるとよい。	B
新しい住民や若い世代のニーズを把握する。	B
アイデア自体はよい。活動について何を評価基準にするかを定めてから、施策を検討すべき。	B
自分の住んでいる地域に関心を持ってもらう。	B
いろいろコーディネートする組織は必要。	B
人材の登録、活用を促すNPOはあってもよい。	B

まずはどう興味を持たせるかが鍵。その辺をもう少し考えると明確になると思う。	C
2) 施策案に対する批判的意見	評価
シルバー人材センターの拡充で十分。新たな組織はムダ。	B
あくまでも支援をすべきで自治会が主導的立場になることは避ける必要がある。	B
市・区の事業とだぶるのではないか。	B
出前講座に類する人材バンクは多様にあります。むしろ現役で活躍している世代(各界人、大学生、研究生など)、時代を作る、つくっていく人々を望みます。	C
NPO 組織の立ち上げは結果であって人材バンクを優先する。 NPO には不健全なものが多い。	C
骨を折る割には参加者は少ないと思う。	C
小中学校ではやっている。青年は出席できない。	C
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
公民館など、常時(何かのサークルがない時も)憩える場所があると、お年寄りも毎日ハリができると思う。	A
高齢者でもかかわっていけるような災害時における共助のありかた、高齢者同士の慶長のシステムをつくる。	B
4) その他、疑問・質問等	評価
年配の方はどのようなセミナーに参加されるのでしょうか？ 参加をされない方がいかに参加してもらえようになるのか、ということだと思います。	B

施策4 イベントカレンダー『(仮称) コミコミみなみ』をつくる

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
公民館だよりにイベントカレンダーがあるとよいかも。	A
うれしい特典など記載。	A
祭りなどのイベントは全く知らないことが多い。協賛金は払うのだが、いつから開催するのか分からず、気づいたら終わっている。是非進めてほしい。	A
カレンダーには各種の市民グループの活動情報も掲載し区民の自主活動を促進すること。	A
WEB 投稿などマスコミ活用など 情報発信(窓口)、連携タイアップなど広い方が良いと思います。	A
イベントカレンダーを各自治会で有効に活用し自治会内で仲間を集めてイベントに参加する方策を考え出すことが重要。	A
地域によっては伝統的はお囃子や祭りはあるが区内全体では知られていない。後継者の育成も考えて周知できるようにあればいいと思う。	A
どこでなにが行われているのか、今まではよくわかりませんでした。	A
ネットをフルに活用すべき。	B
広く周知することは重要。	B
小中学校からたくさんチラシをもらってきますが、ありすぎて分かりづらい。年間行事が一目で分かるものがあると予定を立てやすい。	B
自治会の掲示板に張る。	A
いつも、どこでも目に入る所に掲示板を作って周知したらどうか。	—
区内のどのイベントも東西関係なく集まれる環境づくりが必要(施策2とも関係)。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
もう有るじゃない。	C
イベント内容が大事では。	C

3) 施策案への新たな提案、意見	評価
コミュニティの活動状況の写真を、コミュニティセンター、区役所の通路で見られると関心が高まる。	B
4) その他、疑問・質問等	評価
目立ちたがりやのNPOの排除を定期的に行ってほしい。	B
交流や活動が活発化にならないのは情報が不足しているから、イベントに魅力がないからではないか。外に出る、社会活動に参加する気力がない。	C
各自治会単位でのイベントも含まれるのでしょうか？他の自治会のイベントへの参加はいかがなものなのでしょうか。	C

施策5 シニアサポートセンター（地域包括支援センター）の周知・活用の促進

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
認知症サポーター講座などを学校等にも広めたい。	A
物のわかる人は地域包括支援センターの存在を知っているが、知らないで利用できない人も多いのではないか。	A
知らない人が多いと思いますので、周知はいいことだと思います。	A
今までも機能がわかっていません。	A
僕自身これが何か分からない。もっと知ってもらって活動するとよい。	B
対象となる高齢者に配布できればよい。	C
子ども向けの認知症サポーター講座などを学校で行う。	A
将棋や卓球など、シニアと子どもと一緒にできるものを(2番目の事業について)。	A
シニアを巻き込み、行政、シニアサポートセンター中心に各種イベント等の開催をおこなう。	A
IoT(Internet of Things)が普及しはじめており、キーホルダーは有効。ただし、利用促進を合せて考えることが必要。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
効果は測り難い。	C
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
介護施設の掲載並びに入居者とのふれあい会食会等はどうですか。	A
子育て支援の観点も入れたらどうか。	A
自治会で講演等を実施し重要性を伝える。	A
高齢者へのサポートに応じてポイントをつけ、自分が高齢者になりサポートが必要になった時、そのポイントを使用できるしくみを作ってはどうか。	B
シニアサポートセンターの人員を増やす。公共イベントなどに参加。	B
センターの所在地や機能など広報資料を自治会回覧板に繰り返し掲載し周知すること。	—
4) その他、疑問・質問等	評価
高齢者が増加する傾向に合わせて、見守り体制の充実を図っていきたい。	B
主に高齢者用。	B
そもそも周知や活用を推進しなければならないものをつくってしまったことが疑問。費用対効果を分析し、撤退も検討にいれるべき。	C
高齢者の支援には援助、応援、支援、サポートなど各種サービスが多種多様で、高齢化介護課、高齢福祉課など窓口業務もわかりづらい。	—

地道な活動のみを取り上げてほしい。	—
シニアサポートセンターのテコ入れをすべき。今でも手一杯。	—

施策6 地域・世代間交流を通じた、子育て支援策の充実

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
サークルだと閉鎖的な環境になりやすく、オープンコミュニティの提案が望ましい。	A
子ども同士、家族同士の関係が希薄。もっと交流、集まる場所も公共の場だけでなく、地域全体でやっていくべき。商店同士で行うなど。	A
シニアと一緒に積極的な親子さんは心配ないが、そうではない親子をいかにしてサークル等に足を運んでもらうかだと思います。	A
このようなサークルはセーフティネットであるべきで、問題を生じない家庭は不参加の状態でもよいと考える。	A
自分や子供の悩みを気軽に相談できるような機会を設けるのはよい。	A
時代の進展に対応しきれない日本社会の不幸な姿を徹底的に改善の覚悟が必要です。	A
子ども、親子が楽しく参加できる行事などが大切だと考えます。	A
主要な仕事の一つだと思います。重点的に取り組んでください。	A
年間通して週1回定期的に実施し近所の方に周知を図る。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
行政指導は不安。	A
何を実現したいのか。抽象的なゴールを具体的なものに直し、その後で施策を考え評価すべし。	B
仕事をしている若いママも多いのでSNSを活用して交流できるネットサービスの充実を図った方がいい。時間と場所の共有は難しいと思います。	B
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
おじいちゃん、おばあちゃんと子供たちとの食事会並びにカルタ取り等のふれあい会の実施はどうでしょう。	A
気軽に集まり、相互の情報交換ができる「草・木・遊び場」のある小さい広場をたくさんつくっては。	A
空き家を利用して集まる場をつくる。	A
利用可能な公有地や空き地空き家の情報公開と関係者の協力要請が必要。孫世代をみる祖父母世代の意見も有効です。	A
シニアサポートセンターや元気な高齢者との交流も有効なのではないか。	A
小学校内に子育てサークル、ママ友サークルの集まれる場所があると、入学時に学校が身近な存在になるかもしれない。	B
今の母親は情報量や知識は豊富だが、子どもの安全など基本的な部分について無防備無神経だったりする。より具体的なサポートがあったほうがいい。	B
子育てが終わった老人に子守をお願いして若い母親たちの負担を軽減したらどうか。	A
4) その他、疑問・質問等	評価
行政による子育て支援策の基本は保育所を整備し、待機児童の解消を図ること。	B
共働き家庭をどう参加しやすくするか。	B
子育て世代は仕事を持っている人がほとんどでなかなか参加できないが、集まった時には積極的に話しかけてほしい。	B
ママ友サークルや自治会など既存のものはもう駄目です。なぜこのようになったのか反省してほしい。	C

7階のシルバーセンターと1階の子育てセンターの交流。	—
例えばベンチなど、もう少し公園等を明るくきれいに使っていただければいいと思います。	—

施策7 使いやすく、居心地のよい公共施設への整備

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
古い建物はトイレがダメである。利用者の側に立っていない。バリアフリー以前の問題。	B
子どもの家庭環境やシニア世代の生涯学習など、勉強したいと思った時の居場所がない。実際に南区内の図書館は自習禁止になっている。	A
子供たちも利用できる場所が近くにあるとよい(放課後の居場所が各学区内に)。	A
トイレをきれいに使いやすく。	A
身体が弱ってからでも外出できるようにしてほしい。	A
身近な文教施設である公民館を増やし公民館事業を強化して欲しい。既存の公民館は設備や事業内容に格差がある。館の自主性を拡充し公民活動のレベルアップをはかること。	A
立地条件的に徒歩で行けるという視点も必要。若者の協力を得るなどこれからの交流居場所拡大に期待したい。	A
イベント行う場所がまだ少ない。もっと場所があると地域がより活性化すると思う。	A
元教師や大学生のボランティアが、共働き家庭の子供の勉強の相談の場所にするとよい。	A
場所の設置は早急に取り組んでほしい。	A
パソコンで申し込めるため遠くから利用に来て、地区内の方が使えない時がある。改善できないか。	B
公民館などが、団体ではなくグループ(登録するほどの活動ではない)で使えるとうれしい。	B
申込み・予約方法の改善。健康チェックのできる場を設ける。	B
自治会館がない団体は公民館利用が多いと思われるが中心となる人物のパソコン利用の可否や立地条件で違いなどいつでも自由に使える状態ではない。地区、地域の中心に施設があるのが望ましいが、現実的には難しい。	B
近くに公民館や自治会感がないので地域住民がイベント、会合等ができる施設がほしい。	B
優先的に地域のグループが使える公共施設が望ましい。偽名を使い同じ会が月に複数回使用している場所もある。	B
空家活用は有効だと思う。高層住宅など空いている場合は障害者などの避難場所にしてほしい。	A
古民家の空き家などを借り上げリフォームし特に高齢者・障害者等気軽にふれあえる場所が必要である。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
既存のものは駄目です。権威的、形式的なものを排除願います。	B
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
区役所までの場合には運賃を100円とし、区民の利用促進を図る。周知事項等の理解をふかめる。区役所から遠い地域の区民が参加しやすい状況をつくる。	A
高齢者は年金の方も多いので、利用代金を安くすれば利用が増えると思う。	A
立ち話など気軽に立ち寄れる場所があればコミュニケーション広場になると思う。ケーズ電気の空き家を広場に！さいたま新都心のけやき広場のように、イベントやフリーマーケットをしませんか。	A
建物だけでなく、公園・道路の整備も必要。公園にトイレ、時計の設置。道路の段差解消や電柱・	B

標識の撤去。	
1階の多目的ホールを月1回でも開放して、誰でも立ち寄り休憩でき交流でき、お茶でも飲める場にしたらどうか。	—
4) その他、疑問・質問等	評価
自治会館を持てるように市が積極的支援をしてください。切実にお願いします。	A
公民館までが遠く、自治会館等がない。「場所」が欲しい！！	A
管理をどうするか。	B
個別の項目はいずれも良いことであるが、そもそも何を目指し何か良くないのかを認識したうえで議論することが望ましい。	B
南区は広く、各町会が広すぎます。行事の統合も考慮すべきと思います。	B
案はいいのですが運営は地域の方がするのでしょうか？公共施設の申し込みが大変そうなので、このアンケートのように利用する人たちは優先的にとれるようになるといいですね。	—

施策案-1: 自治会活動への参加促進キャンペーン

自治会は地域の中心となって、地域を安全・安心で住みよいまちにするために、様々な活動を行っています。しかし、新住民も多い南区では、自治会活動への参加者はなかなか増加していないのが現状です。そのため、集合住宅、単身世帯、若い世代等への自治会活動への参加を働きかけるなど、自治会活動への参加促進を図ります。

<p><施策の担い手></p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会の役員/会員全体 自治会連合会 行政の協力、支援も必要 	<p><施策の対象者、対象エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会未加入者 集合住宅(分譲マンションも含む)の住人 特に、賃貸で暮らす単身者または若い夫婦や家族 事業者、商店、施設等
<p>1) 課題と目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単なる加入促進ではなく、自治会活動への参加促進。そのため、すでに加入している人も対象としたい。 自治会が何をやっているかが見えない。自治会活動に参加することの意義、メリット、楽しさなどを伝えることが必要。 自治会の間でも、他の自治会が何をやっているかが分からない。 なんでも行政に頼ることはできない、自発的で必要不可欠な組織であることを理解してもらうことが必要。 分かりやすく興味を引くようなPRの工夫が必要。 ホームページを開設している自治会が少ない。 現在、南区114自治会のうち僅か5自治会
<p>2) 実現のために推進していくべき事業の提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆集合住宅の住民に対して、建物単位で自治会加入を促進 *54.9% <ul style="list-style-type: none"> 例えば、世帯数の70%分の会費を納めてもらう。 管理会社やオーナーに、加入促進への支援を要請する。 ◆マンガ版『もしも自治会がなかったら?』の作成 *42.7% <ul style="list-style-type: none"> 自治会活動の意義、楽しさなどを伝える 地域での防災対策の必要性を伝える 特に若い層に向けて、参加を要請する ◆自治会同士の交流会の開催 *36.8% <ul style="list-style-type: none"> テーマを決めて、意見交換、研修、交流等を行う お互いの“自治会自慢”をして、それぞれの自治会に持ち帰る。それが自治会の質を高める一助になるのではないかと。 ◆自治会ホームページの普及拡大 *32.0% <ul style="list-style-type: none"> 若い世代に自治会の活動をPRするとともに、意見を聞く 自治会費の使い方、その有効利用の提案等
<p>3) 施策推進の行程、優先的に取り組むこと等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 広報、告知あるのみ。 集合住宅から始めることも考えられる。 行政の支援を働きかける。 自治会ホームページ開設を助成すること、等 防災情報の共有を入口にする。 子供や若い層向けのイベントに合せて、自治会のPRを行っていく。

4) 施策の評価: 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等

- ・少子高齢化、家族形態の多様化のなかで、地域の自治、コミュニティの必要性はますます大きくなっており、自治会が、真にコミュニティの中核組織として十分に機能することが重要である。
- ・活動がマンネリ化している自治会もあり、自治会参加促進キャンペーンと併せて、自治会活動のあり方を見直していくことが重要である。
- ・そのため、単位自治会内、および自治会同士の情報交換、交流を活性化させていくべきである。

■参考: アンケートでの評価と主な意見・提案

<総合評価>

A: 有効、是非進めるべき	B: 必要、検討していくべき	C: あまり有効でない	無回答	A+B
115人(45.5%)	112人(44.3%)	15人(5.9%)	11人(4.3%)	89.8%

<主な意見、提案>

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
夫が長年、自治会の役員をやっている。役員の高齢化、若い人たちが参加できない状態は改善が必要。	A
戸建て(新築)も同様に条件に盛り込む。	A
未加入者に対し勧誘にまわって、自治会があるメリットを話す(災害時や防犯上の必要性など)	A
アパートに入居する前に自治会加入が必須だと説明する。	A
単身世帯へのメリットが見えにくいので、研究が必要。	A
自治会は行政の下請けではなく自発的な必要不可欠な組織であることを強調する。	A
集合住宅のオーナーからの一括払い促進と管理会社に協力を呼び掛け、加入や回覧について協力要請。	A
管理会社やオーナーの支援をいただき加入促進を図る。	B
若年層へ自治会の必要性を説明する機会が少ないので、マンガ、Web等は必要。	B
漫画版の他、しっかりした広報資料も作って配布すること。	B
より具体的に検討する必要があるため、関係者の意見聴取や内容に関する検討会が望まれる。	A
自治会交流会が有意義です。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
マンガなんて読まなきゃお終い。	B
自治会活動への参加ではなくて、まずは加入していただくことから始めるのでは?	A
自治会の参加の強制はすべきか? 必要と考える住民が参加するような制度を創出したらどうか。	C
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
自治会費の有効利用を、単身世帯や若い世帯の意見を聞いて検討する。	A
自治会費の使われ方など、見えるものがあると近く感じる。	A
体育やお祭りなど、イベントを通して自治会加入を働きかける。	A
ミニ運動会、子ども対象のイベント、芸能大会なども検討。イベントを多くしても自治会の運営が大変か?	B
若い人を取り込むには家族と一緒に参加できる、サッカー野球テニス等の大会を広く行い、既存の自治会が何らかの協力(資金面や施設面)できたら良いと思う。そこからがはじまりです。	A
ひとつひとつの家に参加促進とともに、南区の商店などが中心になって促進する活動ができるとよい。	A
自治会の活動や班長の仕事が具体的にわかれば「班長が大変だから入らない」というのは減るのでは?	A
防災情報等を広める(共有・改善・改訂)。Webサイトの利用は良・悪があって、よく考えないと無駄になる。	B
近隣の挨拶運動から話し合いに発展するような運動をすすめたいと思います。	B
複数の自治会で目的を設定し交流会(自治会活動の意義、楽しさなど)をひらき意見交換、交流、研修会等をテーマを決めておこなう。	B
参加の意思はあっても新住民で参加しても良いのか? 入っていきやすい雰囲気づくりが必要。	B
反対はしないが、そのエネルギーがあるなら単位自治会活動を活性化したほうがいい。組織率が低いのは自治会活動が不活発で魅力がないからだと思う。役員が率先して勉強してください	A
4) その他、疑問・質問等	評価
自治会役員の固定化をどう防げるか? 選挙立会など行政の末端には援助金が支払われているのか?	B
大きい自治会でなく、小さい自治会がよい。	—

施策案-2: 多世代交流の場『(仮称)みなみフレンドパーク』の創設	
ファミリー層を中心とした子どもから高齢者までの多世代の交流、東西に長い南区における地域間の交流を促進するため、ふるさとふれあいフェア(区民まつり)や各地域でのイベントに加えて、年間を通じて体験型イベントが開催できる場として、『(仮称)みなみフレンドパーク』を創設します。	
＜施策の担い手＞ ・自治会、任意団体、社協、区役所 ・JA ・定年退職されたばかりの知識と経験豊かな方々	＜施策の対象者、対象エリア＞ ・南区/南区内在住者全体を対象 ・ジュニア、シニアにファミリーも加えた多世代を対象として、世代間交流を図る
1) 課題と目標	<ul style="list-style-type: none"> 東西に長い南区では、地域間の交流を図る必要がある。 若い世代が多い南区での、多世代の交流を図る必要がある。 そのため、いつでも利用可能な交流の場の設置が望まれる。 また、既存のイベントでも、東側にも西側にも足を運びやすくすることが必要である。
2) 実現のために推進していくべき事業の提案	<ul style="list-style-type: none"> ◆公的な空地・空き施設等を、交流イベントのために日常的に活用できる場として整備 *70.4% <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の校庭等を、パークあるいは交流広場にする ・別所沼の活用 ◆遊休地などでイベント開催し、区東西間の交流を促進 *39.1% <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、区内東部の遊休地で開催し、中西部から人を呼び込んで、互いに交流する ・木工細工/そば打ち/料理、パン・ピザづくり/季節のお菓子づくり(おはぎ、月見団子など)/けん玉、将棋、囲碁/スポーツ(体操)/ダンス(フォークダンス)/等 ◆耕作放棄地等を活用した農業体験イベント *27.3% <ul style="list-style-type: none"> ・一年を通じた米づくり、野菜作り等を行う ・ふれあいフェアなどで収穫物を販売する ・収穫祭を行う
その他、検討していくべき事業	<ul style="list-style-type: none"> ◇地上絵コンクールの開催 *10.7% <ul style="list-style-type: none"> ・地面に大きなイラスト、まんが等を描き、ドローンで空撮して審査 ・ファミリー対抗、小学校対抗など ◇フリーマーケットの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・花と緑の散歩道、等 ◇動植物ふれあいパークの整備
3) 施策推進の行程、優先的に取り組むこと等	<ul style="list-style-type: none"> ・広く地域住民、団体、行政から意見・提案を聞き、需要と供給の橋渡しをする組織が必要。実行委員会を組織 ・学生からエネルギーやアイデアをもらって取り組む ・競馬場のふれあいまつりのように1カ所に集中しなくても、南区区内で会場をいくつか設定し、各催しを順次回していくのでもよい ・区民まつり等でアンケート調査を行い、住民の声を聞くことが必要 ・まず少数の自治会でやってみて、それを区ベースに発展させる

4) 施策の評価: 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等
<ul style="list-style-type: none"> ・ネーミングが秀逸で魅力的。ぜひ具現化したい。 ・ふれあいまつりの準備の大変さを考えると、規模が大きすぎた場合、実現は難しい。会場をいくつかに分けて設定していけば実現可能か。 ・各地区の交流は人の流れを増すので、最近淋しくなりがちな各地区の商店会も活性化してよいのではないか。 ・災害発生時の区民の安全についても、多世代交流の場を活用して、共通認識を高めることができる。

■参考: アンケートでの評価と主な意見・提案

＜総合評価＞

A: 有効、是非進めるべき	B: 必要、検討していくべき	C: あまり有効でない	無回答	A+B
91人(36.0%)	113人(44.7%)	34人(13.4%)	15人(5.9%)	80.7%

＜主な意見、提案＞

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
子供を交えた交流の催しが、発展性があると思います。継続性が必要要件でしょう。	A
住民が自発的に開催へと向かうようなイベントの進め方が大切だろうと考えます。	C
大変有意義だが、自治会役員の動員はやめてください。単位自治会の活動強化に時間をください。	A
恒常的なものが必要だと思う。ただし、ランニングコストがかかるものは反対。	B
施設の多様な目的使用を。旧南浦和公民館跡の施設の多目的活用を積極的に認めてほしい。	A
イベント開催はよいこと。その場を常設することについては、効果と維持コストの両面から評価すべき。	B
南区内における遊休地については埼京線の東方面にかたより、土地利用の難しさがある。	B
費用予算対効果が問題。	C
フリーマーケットなども桜並木で開催してもよい。	—
季節ごとに(年4回)、小規模でも良いので。	—
世代間交流イベントが少ないので、区の主導で何かやるべき。	A
高齢者の活動(米作りや野菜作りなど)の成果をファミリー層に安価に売り出すとよい。	A
子供たちを含めた行事、食べ物づくりなどの将来につながる体験をしていただく。	B
動植物ふれあいパークや収穫祭(多世代参加・交流)	B
ふれあう機会、ふれあう場所を決めるのも大事。さらに地域のイベントなどがそこを中心に増えれば、自ずと多世代交流の場ができるのではないかと。	B
昔の遊びを教えたり、おもちゃをつくらせたり、等。	B
どこにどんな空き家や空き施設があるか具体的な情報提供が必要。 大学や高校と連携した地域創成活動に成果事例が見受けられる。学生からエネルギーやアイデアをもらって取り組む。	B
2) 施策案に対する批判的意見	評価
地上絵コンクールは学校の負担が大きい。	A
無理じゃないかな。	C
現行の公民館活動の見直し等を図り、新たな制度の創設は不要である。	C
お子さんがいる家庭では遠くに出かけていくのは無理がある。各地域での催しがあるといいと思います。	B
箱物で交流を促すよりも、既存のイベントで東側にも西側にも足を運びやすくすべき。	C
今ある交流の場がよい。	C
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
米づくり、野菜作りの収穫物をふるさとふれあいフェアなどで販売すると地産地消につながる。	B
年に1度のふるさとフェアの半分ほどの規模のイベントをあと3回増やしてみても。 競馬場の場所以外にも設置するなど。	B
区民会議テーマで一番関心の高いのは災害発生時の区民の安全。地域の特性を生かし知恵を出せるよう、多世代交流の場を活用して共通認識を高める。	A
複数自治会で目的を持った世代間交流を開催。まず少数自治会でやってみてそれを区ベースに発展	C
4) その他、疑問・質問等	評価
南区フェア等を見直しできれば良い。	B
別所沼を活用したイベント計画してほしい。	B

<p>施策案-3: 高齢者の知識・経験を活かした、区民セミナーの開催</p> <p>南区には、住んでいる地域の歴史、文化などをあまり知らない新しい住民も多くいますが、一方で、さまざまな知識・経験を持った、恒例の方もたくさんいます。こうした方々に活躍いただき、小中学生、青年層をはじめとした幅広い層を対象とした、さまざまなセミナーを開催します。</p>	
<p>＜施策の担い手＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO、区役所、市文化財保護課、PTA、自治会、自主防災組織 ・地域に住む高齢者の方々 ・小中学校の定年退職なさった元先生方 ・各小中学校のチャレンジスクール講師 ・神社・お寺、公園管理者、警察 	<p>＜施策の対象者、対象エリア＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に比較的関心が薄い住民、小中学生、青年層が主たるターゲット ・各地区の“趣味”の会、その他の市民活動団体 ・自治会
<p>1) 課題と目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのスタートとして、自分の住んでいる地域に関心を持ってもらうことが必要。 ・とくに小中学生に、南区の魅力と特性を伝えたい ・高齢者の生き甲斐のために、現役時代の知識や技術を発揮できる場をつくる必要がある。 ・
<p>2) 実現のために推進していくべき事業の提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆区内高齢者の人材バンク「南区知恵袋」の設置 *55.3% <ul style="list-style-type: none"> ・知識、経験豊かな方々を発掘し、登録する ◆コミュニティセンター、公民館等でのセミナー開催 *46.2% <ul style="list-style-type: none"> ・地域を知る(伝統、歴史、出来事、等) ・地域の文化財、史跡の活用 ・現地見学会の開催 ・災害時における共助のあり方を学ぶ ◆地域の団体の要請に応じた、出前講座の実施 *38.7% <ul style="list-style-type: none"> ・内容は上と同様
<p>その他、検討していくべき事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域の危険場所点検とマップ化 ◇高齢者と子どもの交流会 <ul style="list-style-type: none"> ・昔話や昔遊びを子供たちに伝えて交流する ◇セミナーをコーディネートする組織(NPO等)の立ち上げ *22.5%
<p>3) 施策推進の行程、優先的に取り組むこと等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、どう興味を持たせるかが必要。 ・新しい住民や若い世代のニーズを把握することが必要。 ・コーディネートする組織は必要。 ・浦和区の「CCU(コミュニティキャンパス浦和)」を参考に

<p>4) 施策の評価: 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新住民、若い世代が多い南区においては、地域への理解と愛着を持ってもらうために必要性が高い ・長寿社会の今、高齢者の方々の活躍の場をつくることは重要 ・現実に進められる可能性があるのではないか ・コミュニティセンター、公民館等の事業プログラムとの、調整・連携が必要

■参考: アンケートでの評価と主な意見・提案

＜総合評価＞

A: 有効、是非進めるべき	B: 必要、検討していくべき	C: あまり有効でない	無回答	A+B
96人(37.9%)	116人(45.8%)	28人(11.1%)	13人(5.1%)	83.7%

＜主な意見、提案＞

1) 施策に対する賛同、補足	評価
小中学生には是非伝えてほしい。	A
知識や経験は地域の宝なので、ボランティアで指導をお願いします。	A
高齢者を活かすには現役時代の知識、技術を発揮する場所をつくり、登場させることではないかと思う。	A
コミュニティセンターや公民館と協働して区民セミナーを頻繁に開催すること。	B
高齢者の昔話や昔の遊びを他の世代や子供たちに伝えて交流する。	—
区地域の歴史、文化などの知識や経験談等のセミナー、現地見学などを開催する。	B
昔の経験を大切に発揮していただく。	—
回数、内容、参加者が限定されてしまう。	C
東西に広く区内に有能な方がいますので、人材センターの方に教えるのはありがたいことです。	A
元大学教授や専門の方々のお話を聞けるとよい。IT、パソコンの楽しい使い方も教えてほしい。	A
学校にお呼びして話を聞いたり、実際に体験できるとよい。	B
新しい住民や若い世代のニーズを把握する。	B
アイデア自体はよい。活動について何を評価基準にするかを定めてから、施策を検討すべき。	B
自分の住んでいる地域に関心を持ってもらう。	B
いろいろコーディネートする組織は必要。	B
人材の登録、活用を促すNPOはあってもよい。	B
まずはどう興味を持たせるかが鍵。その辺をもう少し考えると明確になると思う。	C
2) 施策案に対する批判的意見	評価
シルバー人材センターの拡充で十分。新たな組織はムダ。	B
あくまでも支援をすべきで自治会が主導的立場になることは避ける必要がある。	B
市・区の事業とだぶるのではないか。	B
出前講座に類する人材バンクは多様にあります。むしろ現役で活躍している世代(各界人、大学生、研究生など)、時代を作る、つくっていく人々を望みます。	C
NPO組織の立ち上げは結果であって人材バンクを優先する。NPOには不健全なものが多い。	C
骨を折る割には参加者は少ないと思う。	C
小中学校ではやっている。青年は出席できない。	C
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
公民館など、常時(何かのサークルがない時も)憩える場所があると、お年寄りも毎日ハリがでると思う。	A
高齢者でもかかわっている災害時における共助のありかた、高齢者同士の慶長のシステムをつくる。	B
4) その他、疑問・質問等	評価
年配の方はどのようなセミナーに参加されるのでしょうか? 参加をされない方がいかに参加してもらえるようになるのか、ということだと思います。	B

施策案-4: イベントカレンダー『(仮称)コミコミみなみ』をつくる	
各地域の特色ある祭りや年中行事などの情報が、他地域や、自治会未加入者など、すべての区民に周知できていないのが現状です。そのため、地区、団体の垣根を超えたイベントカレンダー『(仮称)コミコミみなみ』をつくり、誰もが見られるよう掲示、配布、配信を進めていきます。	
<施策の担い手> ・南区／コミュニティ課 ・自治会連合会／自治会／地域活動団体 ・広域的に活動するNPO等	<施策の対象者、対象エリア> ・南区／南区内在住者全体を対象 ・特に自治会に加入していない人々に伝えたい ・各地域の住民ではなく、他の地域の人々に伝えたい
1) 課題と目標	・地域ごとに伝統的な祭り等の行事はあるが、区全体には知られていない。 ・伝統行事の後継者育成のためにも、幅広い周知が必要。 ・区内のどのイベントにも、東西関係なく集まれる環境づくりが必要。 ・チラシはたくさん配られているが、年間行事がひと目で分かるものがあるとうい。 ・アナログ、デジタル両方での発信が必要。ネットは情報を取りに行くものなので、必要な人にしか届かない
2) 実現のために推進していくべき事業の提案	◆オープンイベントを南区の地図上に表示して、説明の吹き出しをつけたマップを作成 *36.0% ・費用がかかるが、地域や企業からの協賛金を集められるのではないかと ・できれば、年に4回ぐらい(季節ごとに)更新 ◆イベントカレンダー(マップ)を駅、大型店、コンビニ等に掲示 *49.0% ◆市報南区版への折りこみや、区ホームページに掲載 *45.8% ・
その他、検討していくべき事業	◇定期的に情報を収集、整理する組織(NPO等)の立ち上げ *13.8% ◇イベント写真展、写真コンクールの開催 ・コミセン、区役所ロビー、大型店等で
3) 施策推進の行程、優先的に取り組むこと等	・情報収集。区内の全ての活動団体に対し、アンケートまたはヒヤリング調査により、イベント内容を洗い出す。区民会議に出席してもらいヒヤリングする方法もあるか ・定常的に情報を管理する組織が必要(NPO等) ・民間施設への設置場所の要請 市・区の共催、後援等の公的な位置づけが必要か

4) 施策の評価: 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等
・お知らせということであれば、市のホームページに「イベントカレンダー」が掲載されており、地域ポータルサイトを活用するという方法もあるが、駅構内、大型店、コンビニなどに地域活動掲示板があれば、より身近な活動として、住民が活動に参加しやすくなるのではないかと ・あえてマップ化(視覚化)することで、あまり広報誌を見ない若い層にも、南区の地域活動を理解してもらえるのではないかと ・南区の魅力や区内外にアピールする効果もある ・ハードルは高いが、是非できるところから取り組みたい ・オリンピックに合わせて、外国人等の南区への来訪を促進したい

■参考: アンケートでの評価と主な意見・提案

<総合評価>

A: 有効、是非進めるべき	B: 必要、検討していくべき	C: あまり有効でない	無回答	A+B
94人(37.2%)	105人(41.5%)	41人(16.2%)	13人(5.1%)	78.7%

<主な意見、提案>

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
公民館だよりイベントカレンダーがあるとよいかも。	A
うれしい特典など記載。	A
祭りなどのイベントは全く知らないことが多い。協賛金は払うのだが、いつから開催するのか分からず、気づいたら終わっている。是非進めてほしい。	A
カレンダーには各種の市民グループの活動情報も掲載し区民の自主活動を促進すること。	A
WEB投稿などマスコミ活用など 情報発信(窓口)、連携タイアップなど広い方がよいと思います。	A
イベントカレンダーを各自治会で有効に活用し自治会内で仲間を集めてイベントに参加する方策を考え出すことが重要。	A
地域によっては伝統的はお囃子や祭りはあるが区内全体では知られていない。後継者の育成も考えて周知できるようにあればいいと思う。	A
どこでなにが行われているのか、今まではよくわかりませんでした。	A
ネットをフルに活用すべき。	B
広く周知することは重要。	B
小中学校からたくさんのチラシをもらってきますが、ありすぎて分かりづらい。年間行事が一目で分かるものと予定を立てやすい。	B
自治会の掲示板に貼る。	A
いつも、どこでも目に入る所に掲示板を作って周知したらどうか。	—
区内のどのイベントも東西関係なく集まれる環境づくりが必要(施策2とも関係)。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
もう有るじゃない。	C
イベント内容が大事では。	C
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
コミュニティの活動状況の写真を、コミュニティセンター、区役所の通路で見られると関心が高まる。	B
4) その他、疑問・質問等	評価
目立ちたがりやのNPOの排除を定期的に行ってほしい。	B
交流や活動が活発化にならないのは情報が不足しているから、イベントに魅力がないからではないか。	C
各自治会単位でのイベントも含まれるのでしょうか?他の自治会のイベントへの参加はいかがなものでしょうか。	C

施策案-5: シニアサポートセンター(地域包括支援センター)の周知・活用	
<p>国が進める「地域包括ケアシステム」を推進するため、その中心を担うシニアサポートセンター。しかしその役割や機能の周知がまだまだ知られていません。医療機関や介護施設はもとより、学校などの教育機関、その他さまざまな公共の場を利用して周知します。</p>	
<p><施策の担い手></p> <ul style="list-style-type: none"> 行政機関 教育機関(まずは学校への働きかけ) 民生委員 	<p><施策の対象者、対象エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを含めて、高齢者やその家族 医療機関(まちのクリニック)
<p>1)課題と目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 南区には3箇所の地域包括支援センターがあるが、その仕組みや機能、役割について、区民に知ってもらう必要がある。 窓口がどこかわからない、区の担当セクション(高齢介護課) 市の広報には、年1回くらい掲載されているが、読まれていない。 シニアサポートセンターは人材不足。 民生委員と「会いたくない方」もいる。
<p>2)実現のために推進していくべき事業の提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆まちのクリニック、デイサービス施設、小中学校、公民館などにポスターを貼る *56.9% <ul style="list-style-type: none"> 対象となる高齢者にも案内を配布する。 シニアサポートセンターの所在地や機能などの広報資料を自治会回覧板にも繰り返し掲載する。 ◆高齢者見守りキーホルダーの普及を促進する *38.3% <ul style="list-style-type: none"> 本人が事前にシニアサポートセンターにかかりつけ医や疾患等の情報を登録し、個人番号で管理。その番号が書かれたキーホルダーを各自携帯することで、外出先で救急搬送されたときや徘徊時などに迅速対応できる。登録は年に1回更新することでシニアサポートセンターとの関わりをもつことができる。 ◆シニアサポートセンターが中心となって、子ども向けイベントを開催する *32.4% <ul style="list-style-type: none"> 将棋や卓球など、シニアと子どもが一緒にできるイベントを開催する。 子ども向けの認知症サポーター講座などを学校で行う。
<p>その他、検討していくべき事業</p>	
<p>3)施策推進の行程、優先的に取り組むこと等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行政の指針や計画をまずは確認する。 シニアサポートセンターの周知広報ツールをつくる。 担い手に対する広報と教育、共通認識の醸成。

<p>◆施策の評価: 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等</p>
<ul style="list-style-type: none"> シニアサポートセンターの機能や今後の計画について知り、わかりやすい周知広報ツールをつくる過程で、広報を担当する担い手の理解や共通認識を深めることができる。 シニアだけを対象とするのではなく、介護者となるその家族や、街のクリニックで広報することで、多くの区民が目にする機会をつくることができる。

■参考: アンケートでの評価と主な意見・提案

<総合評価>

A: 有効、是非進めるべき	B: 必要、検討していくべき	C: あまり有効でない	無回答	A+B
110人(43.5%)	104人(41.1%)	23人(9.1%)	16人(6.3%)	84.6%

<主な意見、提案>

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
認知症サポーター講座などを学校等にも広めたい。	A
物のわかる人は地域包括支援センターの存在を知っているが、知らないで利用できない人も多いのではないか。	A
知らない人が多いと思いますので、周知はいいことだと思います。	A
今までも機能がわかっています。	A
僕自身これが何か分からない。もっと知ってもらう活動をするとよい。	B
対象となる高齢者に配布できればよい。	C
子ども向けの認知症サポーター講座などを学校で行う。	A
将棋や卓球など、シニアと子どもが一緒にできるものを(2番目の事業について)。	A
シニアを巻き込み、行政、シニアサポートセンター中心に各種イベント等の開催をおこなう。	A
IoT(Internet of Things)が普及しはじめており、キーホルダーは有効。ただし、利用促進を合せて考えることが必要。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
効果は測り難い。	C
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
介護施設の掲載並びに入居者とのふれあい会食会等はどうですか。	A
子育て支援の観点も入れたらどうか。	A
自治会で講演等を実施し重要性を伝える。	A
高齢者へのサポートに応じてポイントをつけ、自分が高齢者になりサポートが必要になった時、そのポイントを使用できるしくみを作ってはどうか。	B
シニアサポートセンターの人員を増やす。公共イベントなどに参加。	B
センターの所在地や機能など広報資料を自治会回覧板に繰り返し掲載し周知すること。	—
4) その他、疑問・質問等	評価
高齢者が増加する傾向に合わせて、見守り体制の充実を図ってほしい。	B
主に高齢者用。	B
そもそも周知や活用を推進しなければならないものをつくってしまったことが疑問。費用対効果を分析し、撤退も検討にいれるべき。	C
高齢者の支援には援助、応援、支援、サポートなど各種サービスが多種多様で、高齢化介護課、高齢福祉課など窓口業務もわかりづらい。	—
地道な活動のみを取り上げてほしい。	—
シニアサポートセンターのテコ入れをすべき。今でも手一杯。	—

施策案-6: 地域・世代間交流を通じた、子育て支援策の充実	
マンション建設が進み、子育て世帯の人口増が進んでいる南区において、子育てしやすい環境づくりが重要です。子育て世代の不安を取り除くため、子育て支援センターの活動に加えて、地域・世代間交流を通じたさまざまな支援策の充実を図っていきます。	
<施策の担い手> ・保健センター ・学校等教育機関 ・行政機関(情報、とりまとめ役)	<施策の対象者、対象エリア> ・乳幼児とその親 ・小中学生とその親
1) 課題と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家へ相談したいことがあっても個別には難しい。 ・それぞれ乳幼児や小中学生で相談内容も異なる。(例えばおこづかいのあげ方やなど) ・セミナー、相談会等は行政でも開催しているが、働いている方、生活が困難な方などへの対応はどうするか。 ・子育てでサークルやママ友サークルなど、同じ環境の方たちが集まり話をすることが重要。
2) 実現のために推進していくべき事業の提案	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育てサークルやママ友サークルなど、同じ環境の方たちが集まる場をつくる *70.4% ・仕事をしている若いママも多いので SNS を活用して交流できるネットサービスの充実も図る ◆親同士のネットワーク、フェイスブック等の SNS を活用してセミナーや相談会の広報をする *30.0% ◆行政主導で、世代別やテーマ別の公開講座を開催する *29.6% ・乳幼児の親向け、小学生や中学生向けなどの対象別テーマ設定の講座 ・自分や子供の悩みを気軽に相談できるような機会も設ける ◆学校にいるカウンセラーとの連携を図る *29.2%
その他、検討していくべき事業	
3) 施策推進の行程、優先的に取り組むこと等	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは区内でどのようなサークルがあるのか把握する。 ・既存のセミナーなどの情報収集をする。
◆施策の評価: 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等	
<ul style="list-style-type: none"> ・大型のマンション建設が進み、子育て世帯の人口増が予想される南区において、子育てしやすいまちづくりを目指す施策は多くの区民のニーズがある。 ・子育て支援センターだけではなく、区内の公共施設でセミナー、相談会を開催することができれば、地域交流・世代間交流のきっかけをつくることことができる。 	

■参考: アンケートでの評価と主な意見・提案

<総合評価>

A: 有効、是非進めるべき	B: 必要、検討していくべき	C: あまり有効でない	無回答	A+B
129人(51.0%)	96人(37.9%)	16人(6.3%)	12人(4.7%)	88.9 %

<主な意見、提案>

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
サークルだと閉鎖的な環境になりやすく、オープンコミュニティの提案が望ましい。	A
子ども同士、家族同士の関係が希薄。もっと交流、集まる場所も公共の場だけでなく、地域全体でやっていくべき。商店同士で行うなど。	A
シニアと一緒に積極的な親子さんは心配ないが、そうではない親子をいかにしてサークル等に足を運んでもらうかだと思います。	A
このようなサークルはセーフティネットであるべきで、問題を生じない家庭は不参加の状態でもよい。	A
自分や子供の悩みを気軽に相談できるような機会を設けるのはよい。	A
時代の進展に対応しきれていない日本社会の不幸な姿を徹底的に改善の覚悟が必要です。	A
子ども、親子が楽しく参加できる行事などが大切だと考えます。	A
主要な仕事の一つだと思います。重点的に取り組んでください。	A
年間通して週 1 回定期的に実施し近所の方に周知を図る。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
行政指導は不安。	A
何を実現したいのか。抽象的なゴールを具体的なものに直し、その後で施策を考え評価すべし。	B
仕事をしている若いママも多いので SNS を活用して交流できるネットサービスの充実を図った方がいい。	B
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
おじいちゃん、おばあちゃん子供たちとの食事会並びにカルタ取り等のふれあい会の実施はどうか。	A
気軽に集まり、相互の情報交換ができる「草・木・遊び場」のある小さい広場をたくさんつくっては。	A
空き家を利用して集まる場をつくる。	A
利用可能な公有地や空き地空き家の情報公開と関係者の協力要請が必要。孫世代をみる祖父母世代の意見も有効です。	A
シニアサポートセンターや元気な高齢者との交流も有効なものではないか。	A
小学校内に子育てサークル、ママ友サークルの集まれる場所があると、入学時に学校が身近な存在になるかもしれない。	B
今の母親は情報量や知識は豊富だが、子どもの安全など基本的な部分について無防備無神経だったりする より具体的なサポートがあったほうがいい。	B
子育てが終わった老人に子守をお願いして若い母親たちの負担を軽減したらどうか。	A
4) その他、疑問・質問等	評価
行政による子育て支援策の基本は保育所を整備し、待機児童の解消を図ること。	B
共働き家庭をどう参加しやすくするか。	B
子育て世代は仕事を持っている人がほとんどでなかなか参加できないが、集まった時には積極的に話しかけてほしい。	B
ママ友サークルや自治会など既存のものはもう駄目です。なぜこのようになったのか反省してほしい。	C
7階のシルバーセンターと1階の子育てセンターの交流。	—
例えばベンチなど、もう少し公園等を明るくきれいに使っていただければいいと思います。	—

<p>施策案-7: 使いやすく、居心地のよい公共施設への整備</p> <p>区民の誰もが使いやすい場、自由なイベントや会合等の場など、区民の居場所づくりを促進するため、公共施設等の整備・修復に取り組むとともに、申込み方法の改善など、区民が利用しやすい環境を整備します。</p>	
<p><施策の担い手></p> <ul style="list-style-type: none"> 各施設の運営者 各施設を活用しているサークル、団体 	<p><施策の対象者、対象エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> 南区区民 近くに住んでいる方など
<p>1)課題と目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> まずは来てもらう、足を運んでもらうことが必要 築30年、40年の公民館などはバリアフリーとはなっていない、高齢の方など来て欲しい方が来づらくなっている 「世代間交流」の場となるような子育てセミナーや相談会の開催等、コンテンツの充実も必要
<p>2)実現のために推進していくべき事業の提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆コミュニティセンター、公民館等に、いつでも自由に使える場所を整備 *66.8% <ul style="list-style-type: none"> 子供たちも利用できる場所が近くにあるとよい(放課後の居場所が各学区内に)。 ◆既存公共施設のバリアフリー化 *41.9% <ul style="list-style-type: none"> トイレを綺麗に使いやすくする ◆自治会が自治会館等で、交流・居場所づくりに取り組む *41.5% ◆空き家をリフォームして、地域住民が活用 *39.1% <ul style="list-style-type: none"> 古民家の空き家などを借り上げリフォームし、特に高齢者・障がい者等気軽にふれあえる場所をつくる
<p>その他、検討していくべき事業</p> <p><i>*昨年度の検討資料からの抜出し</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇コミュニティカフェ、コミュニティサロンを公共の建物の中に整備 ◇集会場を利用して娯楽を楽しむ ◇地域の施設を利用してイベントを行う ◇公共施設の具体的な活用方法をPRする ◇活動団体における地域の交流・居場所づくりの支援
<p>3)施策推進の行程、優先的に取り組むこと等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の施策で検討しているセミナーや相談会の開催
<p>4)施策の評価: 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等</p> <p>古い施設はトイレ、階段の昇降や段差など高齢者や障がい者、ベビーカー利用者にとって使いづらく、催しや集まりがあっても足が遠く原因の一つになっている。改修には費用がかかるが、不便な施設から順次回収し、改修後に近隣に案内をすればもう一度公民館等に行くきっかけづくりの広報にもなる。</p> <p>広い南区には近隣に公共施設や自治会館がない地域もあり、そのような空白地域で、空き家等の改修でのたまり場づくりは新設するほどには費用が抑えられ、住民同士の交流ができるようになる。</p>	

■参考: アンケートでの評価と主な意見・提案

<総合評価>

A: 有効、是非進めるべき	B: 必要、検討していくべき	C: あまり有効でない	無回答	A+B
148人(58.5%)	86人(34.0%)	4人(1.6%)	15人(5.9%)	92.5%

<主な意見、提案>

1) 施策案に対する賛同、補足	評価
古い建物はトイレがダメである。利用者の側に立っていない。バリアフリー以前の問題。	B
子どもの家庭環境やシニア世代の生涯学習など、勉強したいと思った時の居場所がない。実際に南区内の図書館は自習禁止になっている。	A
子供たちも利用できる場所が近くにあるとよい(放課後の居場所が各学区内に)。	A
トイレをきれいに使いやすく。	A
身体が弱ってからも外出できるようにしてほしい。	A
身近な文教施設である公民館を増やし公民館事業を強化して欲しい。既存の公民館は設備や事業内容に格差がある。館の自主性を拡充し公民活動のレベルアップをはかること。	A
立地条件的に徒歩で行けるという視点も必要。若者の協力を得るなどこれからの交流居場所拡大に期待	A
イベント行う場所がまだ少ない。もっと場所があると地域がより活性化と思う。	A
元教師や大学生のボランティアが、共働き家庭の子供の勉強の相談の場所にするとうい。	A
場所の設置は早急に取り組んでほしい。	A
パソコンで申し込めるため遠くから利用に来て、地区内の方が使えない時がある。改善できないか。	B
公民館などが、団体ではなくグループ(登録するほどの活動ではない)で使えるとうれしい。	B
申込み・予約方法の改善。健康チェックのできる場を設ける。	B
自治会館がない団体は公民館利用が多いと思われるが中心となる人物のパソコン利用の可否や立地条件で違いなどいつでも自由に使える状態ではない。地区、地域を中心に施設があるのが望ましいが、現実的には難しい。	B
近くに公民館や自治会館がないので地域住民がイベント、会合等ができる施設がほしい。	B
優先的に地域のグループが使える公共施設が望ましい。偽名を使い同じ会が月に複数回使用している場所もある。	B
空家活用は有効だと思う。高層住宅など空いている場合は障害者などの避難場所にしてほしい。	A
古民家の空き家などを借り上げリフォームし特に高齢者・障がい者等気軽にふれあえる場所が必要である。	A
2) 施策案に対する批判的意見	評価
既存のものは駄目です。権威的、形式的なものを排除願います。	B
3) 施策案への新たな提案、意見	評価
区役所までの場合には運賃を100円とし、区民の利用促進を図る。周知事項等の理解をふかめる。区役所から遠い地域の区民が参加しやすい状況をつくる。	A
高齢者は年金の方も多いため、利用代金を安くすれば利用が増えると思う。	A
立ち話など気軽に立ち寄れる場所があればコミュニケーション広場になると思う。ケーズ電気の空き家を広場に！さいたま新都心のけやき広場のように、イベントやフリーマーケットをしませんか。	A
建物だけでなく、公園・道路の整備も必要。公園にトイレ、時計の設置。道路の段差解消や電柱・標識の撤去。	B
1階の多目的ホールを月1回でも開放して、誰でも立ち寄り休憩でき交流でき、お茶でも飲める場にしたらどうか。	—
4) その他、疑問・質問等	評価
自治会館を持ってのように市が積極的支援をしてください。切実をお願いします。	A
公民館までが遠く、自治会館等がない。「場所」が欲しい！！	A
管理をどうするか。	B
個別の項目はいずれも良いことであるが、そもそも何を指し何か良くないのかを認識したうえで議論することが望ましい。	B
南区は広く、各町会が広すぎます。行事の統合も考慮すべきだと思います。	B

南区区民会議の提案についてご意見をください

平成27・28年度の南区区民会議では、「地域交流の促進による安心して生き生き暮らせるまちづくり」をテーマにして協議を行っています。現在までの協議で、区民が中心となって進めていくこととして、7つの施策が提案されていますが、より区民ニーズにあった内容とするため、区民のみなさまのご意見をいただきたいと考えています。

ぜひ、アンケートへのご協力をお願いいたします。

- ・ 施策案(1~7)の有効性について、3段階で評価し、○をつけてください。
 A：有効であり、ぜひ進めるべき B：必要なので、検討していくべき
 C：あまり有効ではない
- ・ 施策案実現のためのアイデアで、有効だと思うものを選んでください。(いくつでも可)
- ・ 施策案についてのご意見、ご提案等をお書きください。

<施策案-1> 自治会活動への参加促進キャンペーン

自治会は地域の中心となって、地域を安全・安心で住みよいまちにするために、様々な活動を行っています。しかし、新住民も多い南区では、自治会活動への参加者はなかなか増加していないのが現状です。そのため、主に集合住宅、単身世帯、若い世帯に対して、自治会活動への参加促進を図ります。

評価	
A	B
C	

【上記の施策案を進めるにあたり“有効”だと思うものに、をつけてください】(いくつでも可)

- 自治会活動の意義、楽しさなどを伝えるマンガ版『もしも自治会がなかったら?』を作成する
- 自治会Webサイトの普及拡大を図る
- 集合住宅の住民に対して、建物単位での自治会加入を促進する
- 自治会同士の交流会を開催する

(ご意見、ご提案等をお書きください)

<施策案-2> 多世代交流の場『(仮称)みなみフレンドパーク』の創設

ファミリー層を中心とした子どもから高齢者までの多世代の交流、東西に長い南区における地域間の交流を促進するため、ふるさとふれあいフェア(区民まつり)や各地域でのイベントに加えて、年間を通じて体験型イベントが開催できる場として、『(仮称)みなみフレンドパーク』を創設します。

評価	
A	B
C	

【上記の施策案を進めるにあたり“有効”だと思うものに、をつけてください】(いくつでも可)

- 「地上絵コンクール」(地面に大きな絵を描き、高所から撮影して審査)を学校対抗等で開催
- 耕作放棄地等を活用して、一年を通じた米づくり、野菜作り等を行う
- 公的な空地・空き施設等を、交流イベントのために日常的に活用できるようにする
- 遊休地などでイベント開催し、区東西間の交流を促進する

(ご意見、ご提案等をお書きください)

<施策案-3> 高齢者の知識・経験を活かした区民セミナーの開催

南区には、住んでいる地域の歴史、文化などをあまり知らない新しい住民も多くいますが、一方で、さまざまな知識・経験を持った、高齢の方もたくさんいます。こうした方々に活躍いただき、小中学生、青年層をはじめとした幅広い層を対象とした、さまざまなセミナーを開催します。

評価	
A	B
C	

【上記の施策案を進めるにあたり“有効”だと思うものに、をつけてください】(いくつでも可)

- 知識・経験をもった区民の人材バンク「南区知恵袋」を設置する
- コミュニティセンター、公民館等でセミナーを開催する
- 地域の団体等の要請に応じて、出前講座を行う
- セミナーをコーディネートする組織(NPO等)を立ち上げる

(ご意見、ご提案等をお書きください)

<施策案-4> イベントカレンダー『(仮称) コミコミみなみ』をつくる

各地域の特色ある祭りや年中行事などの情報が、他地域や、自治会未加入者など、すべての区民に周知できていないのが現状です。そのため、地区、団体の垣根を超えたイベントカレンダー『(仮称) コミコミみなみ』をつくり、誰もが見られるよう掲示配布、配信を進めていきます。

評価	
A	B
C	

【上記の施策案を進めるにあたり“有効”だと思うものに、をつけてください】(いくつでも可)

- オープンイベントを南区の地図上に表示して、説明の吹き出しをつけたイベントカレンダーを作成する
- イベントカレンダー(マップ)を駅、大型店、コンビニ等に掲示してもらう
- 市報南区版への折りこみや、区Webサイトに掲載する
- 定期的に情報を収集、整理する組織(NPO等)を立ち上げる

(ご意見、ご提案等をお書きください)

<施策案-5> シニアサポートセンター(地域包括支援センター)の周知・活用の推進

国が進める「地域包括ケアシステム」を推進するため、その中心を担うシニアサポートセンターの役割や機能を、医療機関や介護施設はもとより、学校などの教育機関、その他さまざまな公共の場を利用して周知します。

評価	
A	B
C	

【上記の施策案を進めるにあたり“有効”だと思うものに、をつけてください】(いくつでも可)

- まちのクリニック、デイサービス施設、小中学校、公民館などにポスターを貼る
- シニアサポートセンターが中心となって、子ども向けイベントを開催する
- 高齢者見守りキーホルダー(シニアサポートセンターにかかりつけ医や疾患等の情報を事前に登録しておく仕組み)の普及を促進する

(ご意見、ご提案等をお書きください)

<施策案-6> 地域・世代間交流を通じた、子育て支援策の充実

マンション建設が進み、子育て世帯の人口増が進んでいる南区において、子育てしやすい環境づくりが重要です。子育て世代の不安を取り除くため、子育て支援センターの活動に加えて、地域・世代間交流を通じたさまざまな支援策の充実を図っていきます。

評価	
A	B
C	

【上記の施策案を進めるにあたり“有効”だと思うものに、をつけてください】(いくつでも可)

- 子育てサークルやママ友サークルなど、同じ環境の方たちが集まる場をつくる
- 行政主導で、世代別やテーマ別の公開講座を開催する
- 学校にいるカウンセラーとの連携を図る
- 親同士のネットワーク、フェイスブック等のSNSを活用してセミナーや相談会の広報をする

(ご意見、ご提案等をお書きください)

<施策案-7> 使いやすく、居心地のよい公共施設への整備

区民の誰もが使いやすい場、自由なイベントや会合等の場など、区民の居場所づくりを促進するため、公共施設等の整備・修復に取り組むとともに、申込み方法の改善など、区民が利用しやすい環境を整備します。

評価	
A	B
C	

【上記の施策案を進めるにあたり“有効”だと思うものに、をつけてください】(いくつでも可)

- 既存公共施設のバリアフリー化を進める
- 自治会が自治会館等で、交流・居場所づくりに取り組む
- コミュニティセンター、公民館等に、いつでも自由に使える場所を整備する
- 空き家をリフォームして、地域住民が活用できるようにする

(ご意見、ご提案等をお書きください)

※ご回答いただいた方についてお尋ねします。該当する項目にを入れてください。

性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	家族形態	<input type="checkbox"/> 既婚 <input type="checkbox"/> 未婚
年齢層	<input type="checkbox"/> 20歳未満 <input type="checkbox"/> 20～30歳未満 <input type="checkbox"/> 30～40歳未満 <input type="checkbox"/> 40～50歳未満 <input type="checkbox"/> 50～60歳未満 <input type="checkbox"/> 60～70歳未満 <input type="checkbox"/> 70～80歳未満 <input type="checkbox"/> 80歳以上		<input type="checkbox"/> 子供あり <input type="checkbox"/> 子供なし
		居住地区	<input type="checkbox"/> 内谷 <input type="checkbox"/> 円正寺 <input type="checkbox"/> 大谷口 <input type="checkbox"/> 大谷場 <input type="checkbox"/> 鹿手袋 <input type="checkbox"/> 白幡 <input type="checkbox"/> 神明 <input type="checkbox"/> 関 <input type="checkbox"/> 太田窪 <input type="checkbox"/> 辻 <input type="checkbox"/> 沼影 <input type="checkbox"/> 根岸 <input type="checkbox"/> 広ヶ谷戸 <input type="checkbox"/> 文蔵 <input type="checkbox"/> 別所 <input type="checkbox"/> 曲本 <input type="checkbox"/> 松本 <input type="checkbox"/> 南浦和 <input type="checkbox"/> 南本町 <input type="checkbox"/> 四谷 <input type="checkbox"/> 南区外

ご協力ありがとうございました。

さいたま市南区区民会議

＜問合せ先＞さいたま市南区コミュニティ課

住所:さいたま市南区別所 7-20-1 複合公益施設サウスピア6階

電話:048-844-7130 FAX:048-844-7271